

平成25年度鈴鹿工業高等専門学校入学式（学科） 校長式辞

本日、春の香りが満ち溢れ、桜花咲き誇る、この良き日、平成25年度鈴鹿工業高等専門学校入学式を挙げていただけますことを、大変嬉しく思います。難関を突破し、入学許可を受け、名実ともに晴れて本校の学生となった学科新生209名、留学生3名の併せて212名の学生のみなさん、誠におめでとうございます。本校を代表して心からお祝い申し上げますとともに歓迎いたします。

こうして新しい制服に身を包み、初々しさに満ちあふれ、まばゆいばかりの新生の姿をみていると、校長としても身の引き締まる思いです。私以上に、この良き日を心待ちにされていた保護者の方にとっては、さぞかし感慨無量のこととご同慶申し上げます。私ども教職員は託された責任の重さを改めて認識し、ご期待にこたえるべく気持ちを新たにしているところです。

さて、本校は、1962年、国立高専一期校12校の一つとして創立され、最も古い伝統を誇っている高専です。そして、昨年、50周年を迎え、地元の政官界、教育界、産業界、ならびに鈴鹿高専の教育後援会、同窓会、教職員OBなど、多数の方々のご支援のもと、盛大に記念事業を執り行い、次なる50年の進化に向けて新たに踏み出したところです。

1962年といえば、戦後の荒廃した日本を豊かにするために、高度経済成長が始まり軌道に乗りにかけた時期です。高度成長の重要な担い手は工業であるとの認識のもと、全国各地に工業地帯が形成されました。鈴鹿市においても中京工業地帯の一翼を担う地域として大企業のみならず多数の中小企業が立地しました。

高専は当初は中堅技術者の養成を目的に創設されましたが、時代の変化と社会の要請に応え、15歳の中学卒業生を受け入れる5年一貫教育を基本としつつも、大学編入、専攻科の設置、学校の再編統合などを進め、実践性と創造性を備えた幅広い高度技術者の養成に努めるようになり、より一層高等教育機関としての性格を有するようになってきています。

鈴鹿高専においては、当初、機械工学科、電気工学科、工業化学科の3学科体制で船出しましたが、いくつかの改組・拡充を経て、現在では、本科は機械工学科、電気電子工学科、電子情報工学科、生物応用化学科、材料工学科の5学科により構成され、本科卒業生が進学する専攻科には電子機械工学専攻および応用物質工学専攻の2専攻が設置されています。現在、本科生1076名、専攻科生49名、合計1125名、内留学生14名となっています。

本校からは、今までに8000人近くの卒業生が巣立っていきました。卒業生の活躍ぶりは、ものづくりを担う企業の社長や幹部として、地元の産業界のみならず国内外においても活躍する人材として、高く評価されてい

ます。昨年、国立高等専門学校機構がまとめた「活躍する！高専卒業生」に記載されている鈴鹿高専卒業生は共に海外で活躍されている方ですが、高専の教育の良さは評価しつつも、日本がこれからの厳しい国際競争の時代を生きぬくためには、高い技術力に加えて、自分が日本の代表だという気概と、上から目線ではなく人を人として平等に扱う姿勢、そして丁寧なる礼儀作法が必要であると述べています。

昨年、アルジェリアでは痛ましい事件が起こり無念さを禁じませんが、そこで犠牲になった方々に高専卒業生がいらしたということは記憶に新しいと思います。人類の繁栄と世界の平和のためにグローバルに活躍している高専卒業生を皆さんは誇りにしてほしいと思います。そして見習ってほしいと思います。

本校は、知・徳・体 三育の全人教育を建学の精神とし、勉学、海外研修、インターンシップ、そして体育系や文化系、各種プロジェクトなどに関する課外活動、さらには高専祭やオープンカレッジなどの各種イベントに積極的に取り組んでいます。私は昨年度、初めて校長として着任し、学生たちの素晴らしい成長する力を確認することができました。また、鈴鹿高専のホームページのフォト広報に記載されていますように、各種学会での論文発表、日本陸上選手権大会入賞や高専連合会からの特別表彰、ロボコン地区大会優勝・全国大会ベスト4やパテントコンテスト特許出願対象者選定など、様々な分野からの表彰をいただくことができ、鈴鹿高専が全国的に高い評価を受けていることを実感できました。

皆さんはこの素晴らしい鈴鹿高専の伝統を誇りに、さらに一層発展させていきたいと思います。それにはこれからの5年間、学生の本分である学業を基本に、課外活動、社会貢献などを通じ、自分を見つめ、そして自分をつくりながら、着実に知徳体がバランスよく発達するよう努力することが必要かと思えます。そして、「地域に根差し、世界に羽ばたく、クリエイティブな鈴鹿高専」づくりに、さらに言えば地域から尊敬され愛される鈴鹿高専に向けて努力していただきたいと思えます。

そして、皆さんは未来の技術を担うエンジニアの卵です。技術も遺伝子工学やナノテクノロジーなどに代表されるような超ミクロの対象を扱う分野から、橋梁や空港など何キロメートルにもわたるスケールを扱うものまで様々です。これらの技術はモノとして現れますが、現在ではモノも目に見えない情報やサービス、さらには制度としても現れます。

私は交通工学の研究者でもあります。かつてエレクトロニカル・ロードプライシング（ERP）の効果予測について研究しました。このERP技術はシンガポールにおいて世界で初めて実施されたものですが、都市内の道路の渋滞緩和や大気汚染の軽減を目的に、都心に入る車に料金をかけて交通量を減らそうとするものです。現在、日本の高速道路で実施されているETCと同じような技術ですが、日本のような料金所はなく、一般車線を普通に通行しながら料金が自動的に引き落とされます。

このような課金技術は日本が最も進んでいましたが、日本では実施されることはありませんでした。技術が社会で生かされるには、技術を生かす技術、つまり要素技術を生かす総合技術が必要です。日本はこの総合化する技術が弱いのです。総合化には人間と社会、そして国家の特性を知ることが必要ですので、皆さんはこの分野もしっかりと勉強してください。工学に関係ないと言って、人文科学や社会科学を軽視しないでください。また、この分野は学校の勉強だけでは十分ではありませんので自ら主体的に勉強するようにしてほしいと思います。

幸い最近の新聞に、次のような記事があり、日本も頑張っていると感心したところです。「総合力で群を抜く鉄道・水道」。鉄道を例に言えば、大手のH社が英国高速鉄道のロンドンからドーバー海峡方面へと向かう路線を対象に、この路線を走る車両に加えて、運行システム、保守までをワンセットで受注したのです。このように、現在は、総合技術を輸出する時代にもなっています。

最後に、この五年間の高専生活を送る上で大切にしていきたいことを三つ述べて終わりにしたいと思います。

一つは、学生としての自覚を持つことです。高専生は生徒ではありません。高専は高校と違い、大学と同じく高等教育機関ですから学生と呼ばれるのです。学生としての自覚を持ち、甘えを捨て勉学に励んでください。

二つ目は、目標を持って行動し、そして振り返ることです。このようなプロセスをPDCAサイクルと言っています。PはPlanのP、DはDoのD、CはCheckのC、AはActのAです。一年間の目標とか、3年、5年の目標とかを立て、PDCAで進捗状況をチェックしながら進んでください。本校は英語力を重視していますので、TOEICのスコア何点以上とかを目標にするのもいいでしょう。

三つ目は、地道に勉学に励むことです。入学したから、就職は大丈夫だからといってホッとしないでください。今日をスタートラインに気を引き締めて勉学に励んでください。そして自分の勉強スタイルを確立し、創造的実践力と国際コミュニケーション力を養ってください。

皆さんには、まだまだ形にはなっていない力があります。その力を信じてください。私たち教職員は、その力を形にするべく頑張ります。この五年間で立派になったね、と言えるよう努力します。あなた方もその期待にこたえ、自らを太く大きくしてください。皆さんのこれからの学生生活が、かけがえのない青春にふさわしい、充実した実りある5年間になることを祈って、お祝いと歓迎の言葉といたします。

平成25年4月5日

鈴鹿工業高等専門学校長
新田 保次